

*講演『資料に見る五能線の転変と町の動き』について

菊池保男（実行委員会代表、元能代市史編集長）略歴

1947年 ニツ井町生まれ
1971年 明治大学大学院文学研究科史学専攻終了
1974年 から花輪高校、大館鳳鳴高校、秋田南高校に勤務
この間秋田県立秋田図書館や秋田県公文書館で古文書を担当
〈専門〉秋田近代政治史
〈その他〉

「秋田市史」（幕末・維新时期執筆）

「横手市史」（大正期執筆）

「能代市史」（近世・執筆）

2023年6月『能代山本の先人たち』協作実行委員会(代表菊池保男)が、
山下太郎地域振興奨励賞を受賞



能代駅正面



菊池保男先生

【講演内容】

「五能線」の名前は、始点である能代駅と終点である五所川原駅（青森県五所川原市）の地名に由来していますが、今の始点は、東能代で終点は川部駅（青森県南津軽郡田舎館村）であることを私は知らず、東能代と五所川原間の鉄道だと思っておりました。ところで、その五能線の歴史は、能代駅（能代市機織）と能代湊町駅（能代市）間で開業した1908(明治41)年に始まりますが、これは、奥羽線が秋田第二の町・能代港町の市街地を外れて敷設されたことが関係しておりました。それで奥羽線の秋田以北の路線がどのようにして決められたかについて、話すことから「五能線」がどのようにして敷設されたか、史料に拠って語りたいと思います。

*講演『能代民間の最近の幕末調査と幕末能代随感』について

畑中康博先生（秋田県公文書館副主幹）略歴

1969年 東京都生まれ
1995年 慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程史学専攻 修了
1998年 秋田県立西仙北高等学校に奉職、角館南高等学校、県公文書館古文書班、秋田県立博物館展示・資料班、教育庁生涯学習課生涯学習・学芸振興班を経て、現在は県公文書館古文書班。職名は副主幹(兼)主任学芸主事。

〈専門〉幕末秋田藩政治史

〈その他〉

- ・大仙市アーカイブズ運営審議委員
- ・大仙市文化財保護審議委員
- ・旧池田氏庭園保存整備審議会委員
- ・フリーペーパー『楽園』（隔月刊）に「畑中康博の古文書パラダイス」を連載

〈趣味〉夏は弓道、冬はスキー、普段はアイロンがけ



畑中康博先生



文化財保護協会能代支部発刊資料

【講演内容】

令和4年11月18日から20日にかけて「能代鎮守八幡神社歴史資料展」が開展され、同展示会の展示内容は、秋田県文化財保護協会能代支部が刊行した小冊子『能代鎮守八幡神社歴史資料展 完結編』から知ることができる。展示会では慶応4年（1868年）秋田戊辰戦争に関する資料も数多く列品され、山本誠之助・淳代寺栄正・安濃恒生など能代山本地域の先人の活躍も紹介されていた。

しかしこの3名に共通するのは、戦争中の活躍に対して、特別な恩賞が与えられることはなく、身分上昇も果たさなかった点である。それは何故か？

答えは、古文書から戦争の本質を見通すことで得ることができる。

講演では、戦争遂行のためなら手段を選ばない新政府の手口、戦争に巻き込まれる秋田藩、封建社会の身分格差を戦争に参加することで突破しようとする庶民。これら様々な戦争の断面を古文書から読み解きます。